

インターネット、教材

○品質向上管理

- ・糖度不足は密植による弊害と考えられることから、間伐による根部の育成を図る。
- ・芽かきや摘心により受光体制の改善や適性着果量の励行により、果実成長を促す。
- ・摘果作業を適性の時期に行う。
- ・袋かけを適性時期に行う。
- ・予防作業を定期的に行い、病害虫の発生を抑える。

○風害対策

- ・風害を軽減するためには、防風林や防風ネットで風圧を低下させることが必要。
- ・銅管補強による梨棚の固定を行う。また主枝、亜主枝、側枝等はできるだけ銅管に誘引するようにする。
- ・台風襲来時は追加支柱による補強や、園内破風網を設置すると落下防止効果がより高くなる。

(事前対策)

- ・棚仕立てでは、上下動を防ぐことが重要で棚の内部にアンカーを設け引き下げたり、銅管や竹等を利用して棚面の突き上げを行い、棚面の上下動を抑制する。
- ・主枝、亜主枝等を棚面としっかり固定すると棚面の揺れ防止の効果がある。また、結果枝は、できる限り揺れ防止のため多点誘引を行う。
- ・平棚園では、出入り口など開口部から強風が吹きこみ、棚面を突き上げるように揺らすため、開口部をしっかりと固定する。
- ・ナシ園での風当たりの強い園や場所では、果実袋の枝かけ法を実施する。
- ・園内外の排水を良くし、停滞水を排除する。また、土砂崩れの心配がある場合は、シート等で地面を覆う等の防止策を講じる。
- ・すでに収穫期を迎えている樹種では、強風による落果が懸念されるので、収穫可能な果実はできるだけ事前に収穫する。

他農家の実際にやっていること

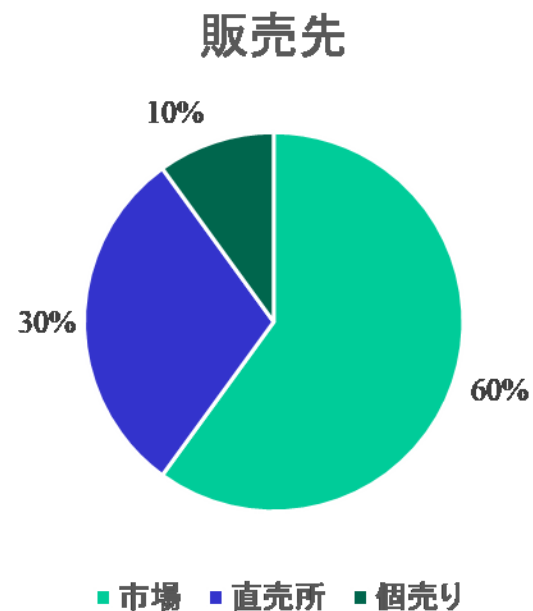
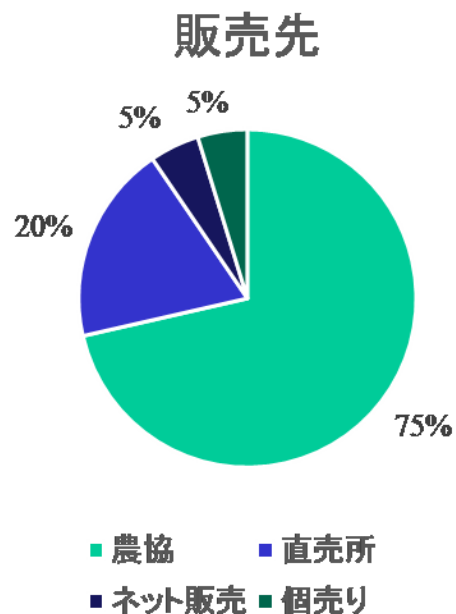
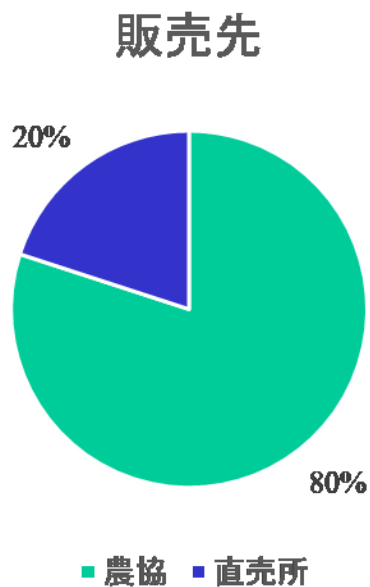
○品質向上管理

- ・芽かきや新梢管理を行うことで、果実の成長を促している。
- ・剪定時にあまり枝が密集しないように注意し、剪定を行う。
- ・病害虫の発生を早期に見つけ予防を行うようにする。
- ・摘果や袋かけは、数が多いため適期に行うことがなかなか難しい。
- ・着果制限をすることにより果実の肥大を促す。
- ・剪定時に風通りをよくすることにより、薬剤のかかりを良くする。
- ・品種により短果枝、長果枝を使い分ける。

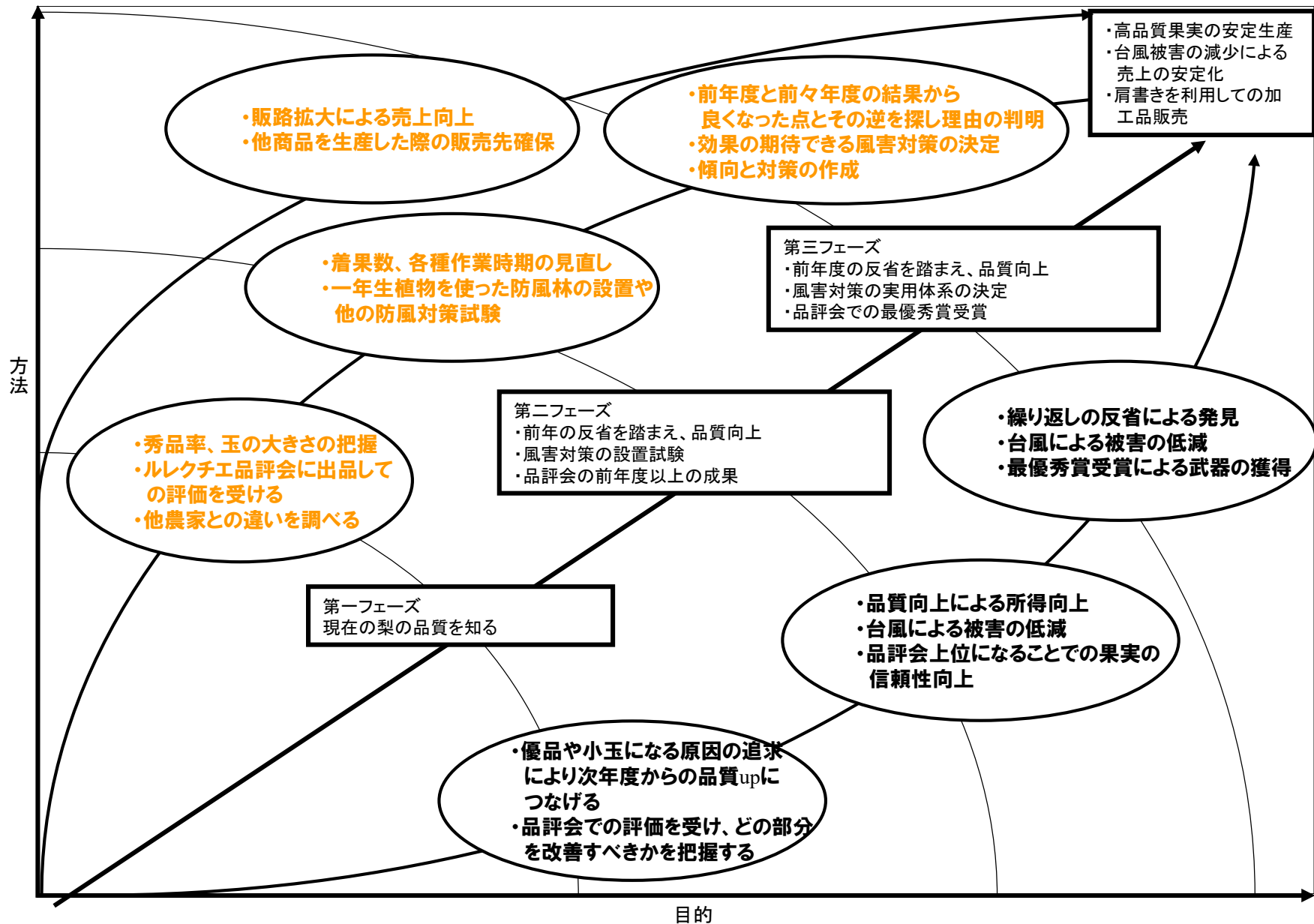
○風害対策

- ・防風網の設置により、風圧を軽減させる。
- ・棚下にアンカーを引っ張ることで棚揺れを軽減させる。

○他農家3軒の出荷先割合（果樹）



- ・今回調査した農家さんは全員直売所の出荷をある程度は行っている。
- ・果樹耕作面積が多い人ほど農協、市場出荷が多くなっている。
- ・少量ながらもSNS等を活用して販売先を広げている。



テーマ

果樹部門売上250万円以上の安定化
～品質向上、販路拡大による売上向上&安定化～

内的環境

- ・日本なしもルレクチエもほとんどが立木栽培の為、作業が行いやすく、作業効率が良い。その反面棚が無い為、防風網や防鳥ネットといった対策が行えない。
- ・個売りを除き全てが農協出荷の為、箱詰め等、出荷準備に手間がかからない。その反面、市場の手数料+農協の中マージンが発生する。さらに、市場のため小玉や優品の物はあてないような値を付けられる時もある。

事業方針の基本的な狙い

- ・品質の悪さは売上の低下につながるため、品質を上げるにより、秀品率を向上させ、売上を伸ばす
- ・台風等風害により落果や果実の外観が損なわれるため、対策を行うことにより被害を最小限に抑える
- ・農協出荷を行い箱代ちょっと程度にしかない程ならば、他の販売方法を行うことで売上向上につなげる

外的環境

- ・台風等強風の影響で半分以上が落果、スレ果になってしまうことがある。
- ・市場出荷の場合は大玉、秀品の果実の生産量増加が売上向上に直接つながる
- ・一般ニーズは最近では、あまり大きすぎると食べきれないため小～中玉の需要が増えてきている

成果目標・経営成果

2019年 売上目標(梨)・・・250万円
2020年 売上目標(梨)・・・280万円
2021年 売上目標(梨)・・・300万円

- ・天気など外的要因に左右されずに毎年安定して250万以上の売上を出せるようにする。

基本戦略 方向性

○基本戦略

- ・台風等による落果や外的要因による品質低下を抑え、安定して高品質、高単価な果実を生産するための方法を模索し、売上の安定、向上を図る。

○方向性

- ・今年度は簡易的な防風対策の実施による被害の最小限化
- ・次年度は一年草を使用した防風林の試験実施
- ・小玉果の個売り、直接販売の検討
- ・新梢管理等行い養分競合を少しでも減らし果実肥大を狙う
- ・剪定改善により風通りの向上